

# キャンヘルプタイランド

## ネットワーク通信

2019年9月15日発行 第86号

※ ネットワーク通信第86号の「タイ便り」はお休みです。

### カレンダー

～2019年5月 - 9月～

日付	内 容	プログラム
5月9日(木)	愛知大学ボランティアツアー説明会	山 岳
5月9,16,23日	NPO イーパーツ Teams オンライン勉強会参加	事務局
5月19日(日)	名古屋 NGO センター総会 参加 ウォーカーソン 2019 出店 (モリコロパーク)	事務局
5月25日(土)	運営委員会	事務局
5月30日(木)	ぼらマッチ 打ち合わせ 愛知学院大学	事務局
6月7日(金) ～8日(土)	「NGO・市民社会組織のための危機管理・安全管理研修」参加 主催：NGO 安全管理イニシアティブ (JaNISS) 東京	事務局
6月15日(土)	ぼらマッチ 愛知学院大学	事務局
6月22日(土)	運営委員会	事務局
7月6日(土) ～14日(日)	奨学金授与式ツアー カンボジア タイ	奨学金
7月27日(土)	運営委員会	事務局
8月5日(月) ～12日(月)	愛知大学ボランティアツアー 引率(第1グループ) 学生30名 ピサヌローク チェンマイ バンコク	山岳
8月6日(火)	篠岡中学校生徒会文房具寄付「カサロンの家」へ	山岳
8月18日(日)	名古屋千種ロータリークラブ カンボジアトイレ支援 建設資金授与	カンボジア
8月20日(火) ～27日(火)	愛知大学ボランティアツアー 引率(第2グループ) 学生29名 ピサヌローク チェンマイ バンコク	山岳
8月23日(金)	日本万国博覧会記念基金 助成事業応募説明会	事務局
9月1日(日)	NPO イーパーツ プリンター寄贈プログラム (FAX プリンター受領)	事務局
9月11日(水)	認定 NPO 法人申請 事務所調査	事務局

### ●今後の予定

日付	内 容	プログラム
9月28日(日)	午前 運営委員会 午後 第1回翻訳会	奨学金
10月12日(土)	名古屋女子大学中学高校生 事務所訪問	事務局
10月13日(日)	ワールドコラボフェス 栄オアシス ブース出展	事務局
10月下旬	第2回翻訳会	奨学金
10月下旬	運営委員会	事務局
11月22日～	名古屋千種ロータリークラブ カンボジアトイレ支援ツアー	カンボジア
11月下旬	第3回翻訳会	奨学金
11月下旬	運営委員会	事務局
12月中旬	国際協力カレッジ	山 岳
2月下旬	チェンマイ「カサロンの家」ツアー (予定)	山 岳

## 報告 1

～2019年度 奨学金授与式報告～

伊 東 朋 子

一会員であるだけの私が、奨学金ドナーの代表として今年度から始まったカンボジアとタイ5県の奨学金授与式に参加させていただきました。これまで、建設ワークキャンプ中心の活動しか経験がなかったので、緊張しつつも4年ぶりのタイに胸踊らせて出発しました。

+α（個人的嗜好）偏重の報告になるかと思いますがご容赦ください。

7月6日 土曜日 バンコク～カンボジア サンパオルン

CAN 運営委員の坂さん（以下 B さん）と松本さん（以下 M さん）とスワンナブーム国際空港で朝7時に待ち合わせ、北バスターミナルからアランヤプラテート行きのワゴンの乗り合いバスに乗り。ぎゅうぎゅう詰めだったけど、車窓の景色を楽しむどころか深い眠りに落ちる。

お昼頃到着して、徒歩で国境を越えカンボジアへ。税関を出るとアンコールワット行きの観光客を狙ったタクシーの客引きがすごい。クメール語、タイ語、英語が勢いよく飛び交っていた。B さんの巧みな値段交渉で、無事バタンバン州サンパオルンのホテルへ移動。タイ側でワークキャンプしていた学校とは、ほんの目と鼻の先なのに、正式なルートで入国すると、おそろしく遠回りのように感じた。

お世話になる現地教育委員会委員長のアン・サム・アスさんと挨拶後、郡長さんとアンさんの奥様ソフィアさん、末娘のピーサイちゃん家族と夕食。川魚のスープや牛肉、魚介類の炒め物がおいしかった。アンさんは気さくな方で、訛りの強い英語で歓待してくださり親切だった。郡長さんも、偉ぶった感じもなく、日本でいうところの顔合わせ挨拶をして中座された。少し足をひいて歩かれていたのは、以前地雷にやられたとのこと。その後も集落の中で義足の人を見かけた。あらためてどんな場所へ来ているのか自覚する。長い1日でくたくたになりすぐ寝てしまう。



7月7日 日曜日 サンパオルン

アンさん家族

朝食は、ホテルの近くの昨日のレストラン（定食屋）。カンボジアの定番朝食というフランスパンと牛肉煮込みシチューの取り合わせが驚くほど美味しい。タイ料理と似ているけど辛い。カンボジア料理も気に入った。町は、広い道路の交差点を中心に店が並んでいて、高い建物はなく落ち着いた感じ。日曜日のこともあってのんびりしている。

午前9時、バイクタクシーにまたがって10分くらいの郡庁の施設へ。式の前、付け焼刃でカンボジア語と英語の挨拶の練習をしていたら、どこかの校長先生がチェックしてくれた。発音が難しくてダメ出し連発だった。

授与式セレモニーは、郡庁の脇にある教育委員会の中でアンさんの進行で始まった。小学校1年生の児童10人が緊張した顔で着席している。保護者も心配そうに見守っている。各学校の先生方は書類記入で忙しそうだった。そんな中、郡長さんの挨拶が続く。そして奨学金の授与。一人一人に直接奨学金を渡すということを初めて実感した。私のカンボジア語の挨拶は伝わったかどうか反応は今ひとつで、英語のスピーチの方はアンさんが現地語に通訳してくれた。日本語の歌「1年生になったら」と「オークン（ありがとう）」の時だけ笑顔をいただいた。セレモニーの最後は写真撮影で、ようやく参列した誰もがほっとして場が和んだ。



午後からは、4人の子どもの家庭訪問をすることになり、アンさんといつものレストランで昼食。そこへ、町の実力者っぽい雰囲気的人物と総勢10人ほどの一団が入って来た。アンさんは、その中のドンらしき男性に呼び出され、しばらくするとどどってきた。家の近所の人らしい。Bさん、Mさんも呼ばれて挨拶しに

行き、「後で家に寄るように。」と誘われた。

家庭訪問の1人目は、サンパオルン小のサネ君。学校の若い女の先生の案内で、集落の一角、石とゴミだらけの道なき道を進み奥へ入っていくと、サネ君と祖母が待っていた。4歳の妹と3人暮らしで、父母は離婚、母はタイに出稼ぎに行っていて、年に1回だけ帰ってくるという。まだまだ甘えたい年頃だろうに、と情が移りそうになるのを抑える。

多くの学校は、午前7時～11時、午後1時～5時の2部制になっていて、これは子どもの数に比べて学校、教室、先生の本数が少ないからだという。先生も複数の学年、学級を担当しているらしい。サネ君たち1年生は午前の部で教科は国

語、算数と、理科と社会が一緒になった日本というところの生活科の3教科のみで、音楽、図工、体育などの情操科目はないという。「好きな教科は理科。」と、はにかみながら答えてくれた。

知らないうちに近所の人や子どもが集まってきている。おばあさんからバナナを一房頂いた。彼女はたぶん私より若い。激動の時代を生き抜いてきたのだろうな。

2人目も同校のチェリカちゃん。祖母と姉（小2）と4人暮らし。父母は末の妹（3歳）をつれてバンコクで建設作業の日雇いをしているらしいが、体を壊して仕送りはほとんどない。今は、祖父の年金で生活しているという。好きな教科は算数で、簡単な文章をかわいい声でゆっくり読んでくれた。

案内してくれたシム・ソフィアッ先生は、英語を流暢に話す新任の先生だった。やる気に満ちていて、子どもを思う気持ちがしっかり伝わってきた。ポルポト政権下以来教員の本数が不足していたというが、国境の村で彼女に会って、カンボジアの教育の未来を担ってってくれる頼もしさを感じた。

この後、CANの別のプロジェクトでトイレを建設予定の学校へ寄った。写真で見たとき瓦礫だらけだった校庭を重機で整地している途中だった。日曜日の昼下がり、子どもたちが元気よくサッカーをして遊んでいた。ふつうなら当たり前の光景。でもこの子どもたちにとっては、つい最近やっと安全な校庭が与えられたのだ。アンさんが作ってくれた新鮮なココナツジュースで休憩をとりながら、子どもの歓声にしばし心が癒やされる。校庭の隅には、別の海外ボランティア団体により、水道の浄化施設の設置工事がほぼ完成していた。配管が整えば、トイレの水汲みがらくなることだろう。不思議なことに、校舎は古いままで、校長室だけ造り替えている最中だった。アンさんがぼつりと「教育委員会よりも大きくて立派だ。」と笑って言った。ここでは何が優先されているのだろうか。支援のほとんどを外国に頼っているのが現状と聞くが、政治や権力も絡んでいるのだろうか。

3人目は、アンコールバーン小のチョムロン・ダネイ君。父、祖母、兄（小6）、姉（小3）の5人暮らし。母は、刑務所に入っているという。父は、定職がなく、日雇いで農作業を手伝っている。国語が好きといったが、体育があれば絶対そちらだろう。

最後4人目は、同小のポー・ラノ君。父母（日雇い農作業）、兄（小4）、弟（1歳）、祖母の6人家族。トウモロコシの収穫の最中で父母は留守だった。国語が好きだという。近所に親戚が集まって住んでいるらしく訪問中に子どもがどんどん増えていき、どの子がどの子かわからなくなってしまった。年上の子が年下の子の面倒をよくみていたことに感心した。助け合って生活しているのだろう。



ラノ君家族

4年前、アランヤプラテート近くの国境の市場で働くカンボジアの子どもをたくさん見た。身なりや表情などタイ側との違いに驚いた記憶がある。今回家庭訪問で回ってきた子どもたちの家も生活に余裕があるようには感じられなかった。土地がないと日雇いで働くか出稼ぎに行かざるを得ず、欠損家庭も多かった。大きい子は学校に行っていない時間は、家の仕事や市場などで手伝っているのだろうか。訪問した家の保護者は子どもには教育が必要であることをよくわきまえているように見受けられたが、中学校への進学率はどれくらいなのだろうか。奨学生を選ぶのは、現地の先生に任せているが、奨学金の目的が活かされるよう公平な選考を望みたい。このプロジェクトを続けるためには、どんな支援が必要で、現地では何を望んでいるのかなど考えながら家庭訪問を終えた。

その後、アンさんの顔を立ててドン之家に寄ることにした。近所の家どころか、村を外れてバイクで走り続ける。Bさんがググるとジャングルの中「こんなところに一軒家」みたいな環境。門からもかなり走ってようやく大きな高床式住居で出迎えられた。壁いっぱい写真の中に、ドンとフン・セン首相とが親しげに握手しているものがあった。3人で、あれこれ想像をめぐらせて彼は元ボルポト派の要人だったのではないかという推論を立てた。ドンことMr.ニカンは、厳重警備された中で悠々自適に生活しているように見えた。終始友好的な態度で、趣味で作ったキッチンオブジェや大トカゲの剥製を披露してくれたり、夫人とともに広大なお庭を案内してくれたりした。夕食のお誘いは丁寧に断りして出てきたが、BさんMさんは、コネクションを繋いでおくといいことあるかも、と残念がった。私は、元ボルポト派なんてまっぴらと思ったが、了見が狭かったかもしれない。食事に誘われて断ることは失礼にあたる後で知った。カンボジアの歴史には、カンボジアの事情がある。無知な私の個人的感情は大人げなかった。そういえば途中で見た学校がいくつか新しく建て替えられていたのは、2年前遊説にきたフン・センさんの「鶴の一声」だったとか。カンボジアの事情を理解した上で活動していく方が子どものためになるのだったら・・・と複雑だが、この国をもっと知りたくなった。

戻る途中に日本の国旗のある看板を見つけた。2年前、この辺り一帯の地雷をすべて除去したと書かれてあった。今はトウモロコシ畑になっていて、のどかに風にそよいでいた。



7月8日 月曜日 サンパオルン（カンボジア）～ロイエット（タイ）

朝6時。サンパオルン出発。乗り合いタクシー（普通乗用車）に運転手併せて7人乗って国境沿いを北に走る。後部座席4人はお尻を互い違いにしないと座れない。途中の町シソボンでタクシーを乗りかえ、今度は大人7人+赤ちゃん2人+荷台に鶏2、3羽の乗車。あちこち寄りながら、さらに北東の国境の町オスマックで下車。税関を通りタイ側のチョーンチョームへ徒歩移動。2日ぶりのタイだが心なしか町が垢抜けて見える。そこからワゴンの乗り合いバスに乗ってスリンへ向かう。

午後1時過ぎ、スリン到着。3時のロイエット行きのバスを待つ間、鶏味のバ・ミー（麺）とアイスクリームパフェを食べて一休み。Mさんは、なぜか扉のある冷房の効いた店を探し出す才能がある。最後の長距離バスの座席はほとんど壊れていてリクライニング状態だったが、手足を伸ばせたので夢の世界へ誘ってくれた。ちなみに、この移動方法は経費節約のためでもあるが、Bさんの趣向がかなり反映している。ハードではあるが、楽しい。

午後6時、12時間かけてようやくロイエット到着。いつもお世話になるフリー代表兼通訳のムさんと落ち合う。タクシーでホテルへ移動後、近くのカフェ併設の食堂で夕食。タイ茶のタピオカドリンクが美味しい。疲れていたけど、ムさんとの再会が嬉しくて積もる話で寝るのも惜しかった。

7月9日 火曜日 ロイエット～マハサラカーム～カラシン  
午前8時半、ロイエット県教育委員会のお迎いで授与式会場へ。すでに学生は集まっていた。授与式次第は、ほぼ以下の通り。

- ① 教育委員会代表の挨拶（副教育委員長クラス）
- ② 奨学金授与
- ③ CAN 挨拶
- ④ 学生の出し物（近況報告、学校での活動報告、歌、踊りなどで、手作りの贈り物をもらうことも。）
- ⑤ 書類作成作業・回収（このうちの一部が日本の奨学金ドナーに届けられる。）
- ⑥ 記念撮影



県のあちらこちらから来ているので、たいてい学校の先生が付き添ってきている。交通費は先生の自腹なのか気になった。1人年間3000パーツ手渡しているが、昨今のパーツ高で奨学金としての価値も気になるところだ。授与は、Mさんに任せて、裏方のお手伝いをする。Bさんは、撮影と書類確認係。いつも写真でドナーに送られてくる光景が目の前で粛々と進められる。挨拶もムさんがうまく適当に通訳してくれるのでほとんど一発本番。中学生から大学生までの奨学生の中、継続して参加している学生も多く慣れていて落ち着いた雰囲気である。書類不備の子には、ムさんが優しく厳しく指導していた。携帯電話を触っている学生もけっこういた。やはり今は必需品のようだ。

授与式後、すぐ次のマハサラカーム県へ昼食をはさんで移動する。教育委員会の担当者が次の会場まで送ってくれるシステムになっているらしい。夢にまで見たソムタム（青パイアのサラダ）がとても美味しい。とりやカエルの唐揚げ、川魚の発酵焼き、牛肉のテーブ、カオニャ（餅米）のちまきなどすべて私の大好物で食欲が抑えられない。

午後1時半、マハサラカーム県セレモニー開始。裏方仕事（名前の確認、学生に渡すもの、写真番号の確認など）にも慣れて段取りがよくなる。この作業を、これまでCANの運営委員とムさんのたった2人でこなしてきたわけだから頭が下がる。前の晩も、名簿の照合、お金の仕分け、渡す書類の確認作業など細かい準備が山ほどあった。

こうした授与式一連を通して、ムさんや、現地教育委員会、各学校の担当の先生などたくさんの方々の善意に支えられながら、日本の奨学金が学生に届けられていることがわかった。学生から、手作りの花束、花籠、絵などをプレゼントされた。時間をかけて丁寧に作ってあり、感謝の気持ちが伝わってきた。

午後4時半、カラシンのホテル到着後、すごいスコール。でも洗濯開始。まったくの余談だが、ブラックコーヒーが好物の私、なかなか熱々の甘くないブラックコーヒーを飲める店に出会えなかった。Bさんが好きなアイスカフェラテはどこにでもあるのに。ところが、BさんとMさんが散歩中に見つけた店では、日本製の本格サイフォンで目の前で煎れてくれた。旅の疲れも吹っ飛び、幸せな気分が長い1日が終わる。



7月10日 水曜日 カラシン～ムクダハーン

ホテル前の地元で有名な店で朝食（お粥と揚げパン）を食べ、午前9時出発。カラシンの会場は、クーラーが効いていて、こんな時に限り上着を車内に忘れる。

午前9時20分、カラシン県セレモニー開始。学生から英語のスピーチや、イサーン地方の歌、ピンクパンサーの歌（タイでは圧倒的に韓国アイドルが席卷している。）などの披露があり楽しませてもらった。発表してくれた学生には、ささやかなプレゼントを渡しているのだが、会の終了後、恥ずかしそうに自作の絵をくれた男の子シティポン君を見失って渡すことができなかったのが心残りである。



シティポン君

午後、2人の奨学生の家庭訪問をすることになった。まず、案内してもらうために2人の通っているドン・

チャーン中高等学校の担当の先生を探しに行ったら、校長室に通された。この学校は周辺の10以上の小学校から子どもが集まってきているという。生徒数470人というのは、希望者がすべて入学できるわけではないだろう。緑の多い落ち着いた学校で、休み時間なのか涼しげな中庭のあちこちで生徒たちが談笑していた。学校の裏は森で敷地はかなり広そう。

1人目は、チェムサーイ（中3女子）さん。ニックネームで「かわいい」という意味だそう。両親は離婚。祖父母と妹（小6）の4人暮らし。祖父の仕事は、車の修理業。チェムサーイの将来の夢は、秘書。祖母は会計士など堅い仕事に進んでほしいという。黒目の大きな文字通りかわいい女の子だった。妹はちょっと拗ねた感じで彼女の方が心配になる。



2人目は、グリッサダー（高3男子）君。授与式の時、代表で挨拶をした子である。家は、広大な校庭の裏にあり、屋根だけ作りかけの建物が家の前にあった。父母と姉（コーケンにある大学の工学部3年生。たまたま帰省中）、弟（小3）の5人家族。グリッサダー君は、奨学生として6年目という。父は、日雇いのキャッサバ畑農作業、母は、病気療養中で手術を控えていた。経済的な理由で、屋根だけの家（父の手作り）は4年前から建設をストップしているが、子どもの教育に対する関心は高そうである。グリッサダー君の希望は、コンケン大学の工学部に進みたいが、親のために、医療費の補助がある地元の公務員になるかどうか迷っているところだ。細身だが笑顔のさわやかな優しい子で、私も心の中で声援を送った。

午後3時過ぎ、ムクダハーンに向けて出発。絵にかいたような一直線の新しい道路を100キロメートルひた走る。

午後5時過ぎホテル到着後、部屋に荷物を置いてすぐロビーに集合。ムクダハーン教育委員のユパーさんが景色のいいところに連れて行ってくれるという。初めての観光だ。

ユパーさんの車で市街地南に位置する丘の上にあるワット・ローイ・ブラ・プッタバート・プー・マノーロムという寺院へ上っていく。まず頂上の巨大な純白大仏に圧倒されるが、息をのんだのは何と言っても蕩々と流れるメコン川と対岸のラオスの町サワンサケットが見渡せる絶景である。雄大、荘厳、優美……どの言葉も当てはまらないスケールの大きさ。陽が落ちるまで見とれていた。その後、町のナイトマーケットでそれぞれ好きなものを買って夕食。地元の人たちで賑わっている。何度も食べるソムタムがここでも美味しい。ただしみんな空腹だったのか買いすぎた。ユパーさんは同席してくれたが、食事を勧めてみても夕食はほとんどとらないということだった。



7月11日 木曜日 ムクダハーン～ナコンパノム

午前8時半、ムクダハーン会場へ移動。昨夜のナイトマーケットの隣りだった。

午前9時、セレモニー開始。学生からの出し物はイサーンの踊り、ギター伴奏つきデュエット、賞状の披露など。ユパーさんたち教育委員会の女性は、素敵なシルクのスーツ（民族衣装をアレンジしたジャケットとロングスカート）を着ていて夕食を抜いて体型を維持している理由が理解できた。

午前10時半、いよいよ最後の会場ナコンパノムへ出発。時間がないので車内でお弁当（目玉焼きのせ野菜炒めごはん）と夕食の残りを食べる。

午後0時半、ナコンパノム到着。予定より早く着いたのでムさん満足そう。また突然のスコール。

午後1時セレモニー開始。授与式の後、日本の絵本コンクールに出品した学生2人に、表彰状と記念品を渡した。学生の出し物は、イサーンの踊りや、ルービックキューブの早業披露、手作りカードやトートバッグのプレゼントなど。このカードが面白くて、ドラえものの絵と日本語で「こんにちは」「幸せになりますように」「金持ちになりますように」と書かれていて微笑ましかった。

授与式の報告は以上です。今回出会った児童や学生たちが、やりたいことを目指して励み、将来自立した生活を築けるようにと強く願った6日間でした。また、行く先々で、私自身が学生たちに向き合うに足る生き方をしているのかという自問を繰り返すこととなり、日頃の生活に「喝」を入れてもらいました。しばらくは人生のカンフル剤として効力を発揮してくれることでしよう。

勝手な思い込みで記したので、事実と違っていたらお詫びします。坂さん、松本さん、そしてムさん、準備して下さったCANの運営委員の方々、お世話になりました。最後に、このような貴重な機会を与えていただき心から感謝しています。ありがとうございました。



## 報告2

### ～カンボジア奨学金プログラム～

伊東さんの報告の通り、カンボジア奨学金を無事にスタートすることができました。本年度は小学1年生10名に80ドルずつ支給しましたが、来年度は1年生10名、2年生10名の合計20名に支援することを目指して、寄付金を集めたいと思いますので、皆様のご協力をお願いします。

◇ 奨学金プログラムへご支援いただき、振込用紙の備考欄に「カンボジア」とお書きください。

## 報告3

### ～愛知大学タイボランティアツアー2019～

今年も、1グループ(8月5日～12日)と2グループ(8月20日から27日)、計60名の大学生とチェンマイの「カサロンの家」へ行きました。昨年と同様に「カサロンの家」に4泊した学生は、現地の子どもたちともとても仲良くなり、有意義なツアーになったと思います。

定員30名のツアーに100名以上の学生から応募が殺到したので、急遽2グループ60名での実施となりましたが、来年以降もこの人気が続くことを期待しています。

## 報告4

### ～篠岡中学校生徒会より～

愛知県小牧市にある小牧市立篠岡中学校の生徒会から、文房具(ノート、鉛筆、消しゴム、筆箱など)の寄付をいただき、8月のツアーを利用して、チェンマイの「カサロンの家」へ運びました。文房具をもらって嬉しそうな子どもたちの写真を、お礼状とともに篠岡中学校へ届けました。



## イベント

### ～ワールドコラボフェス2019～

10月13日(日) 名古屋市栄「オアシス広場」でワールドコラボフェスが開催されます。

キャンヘルプタイランドも昨年同様にブースを出展し、写真展示とタイ雑貨などを販売しますので、どうぞお越しください。

お知らせ

～ご寄付のお願い～

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
カンボジア支援プログラム	1 □	5,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…  
 会員になっていただいた方には、年4回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年1回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>  
 口座名：NPO キャンヘルプタイランド  
 番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2019年5月～7月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	5月	事務局	ぼらマッチ打ち合わせ
運営委員会	6月	事務所	奨学金授与式準備
運営委員会	7月	事務所	奨学金授与式報告

**運営委員募集中！**

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

**編集後記**

今年は、本当にたくさんタイへ行きました。  
 2月のカンボジア井戸支援、チェンマイ  
 4月の名古屋千種ロータリークラブカンボジア井戸支援完成式  
 7月の奨学金授与式  
 8月の愛知大学ボランティアツアー 2回  
 タイとカンボジアを一度に周ることが多いのでパスポートの査証ページは、タイ入国・出国、カンボジア入国・出国、タイ入国・出国の6つのスタンプが押されます。  
 11月には、名古屋千種ロータリークラブのカンボジアトイレ建設完成式が控えています。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.86>

発行 NPOキャンヘルプタイランド  
 発行人 西川 弘達  
 編集人 坂 茂樹  
 発行日 2019年9月15日  
 住 所 〒450-0003  
 名古屋市中区名駅南2-11-43  
 NPOステーション内  
 Tel & fax 052-566-5131  
 (OPEN：土曜の13～16時頃)  
 E-mail : office@canhelp.jp  
 ホームページ : http://canhelp.jp